

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり

439

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「だからのしぼり」

くす星翔中学校 生徒

「あんたってさ、男の子なのに泣きムシだよね。」

この言葉は、ぼくに強い印象を与えました。これは、小学二年生のころ、ある女の子と遊んでいた時に言われた言葉です。

このころのぼくは、虫が苦手で見ると逃げていました。そんな時、ある女の子がカエルをもって見せてきました。

ぼくは、カエルも苦手だったので、そこから少し離れました。そうしたら、その女の子から

「あんた、カエル苦手なの？」

と言われました。ぼくが

「うん。」

と返事をする、カエルをもち追いかけてきました。

ぼくは、たまらず逃げました。そ

して、しばらくの間、しつこく追いかけたので、いやになって泣き出してしまいました。

そうしたら、その子は、

「もう、ういゃ。」

と言いつつ、そこから帰っていききました。ぼくも気持ちを落ち着かせて家に帰りました。

翌日、学校の昼休みにその女の子から

「あんたってさ、男の子なのに泣きムシだよね。」

と言われました。

ぼくは、この時複雑な気持ちになり、男の子は泣いてはいけないんだと思い、直していいこうと考えていました。

ですが、最近このことを思い出した時に、なぜ、男の子が泣いたらいいられないといけないのだろうと思

いました。大人からでも「男の子だから泣かないのよ。」と言われたことがあります。

大人のどんなに苦しくても強く生きていかなさいという気持ちも分かります。

でも、たまにはくよくよく泣きたい時もあります。この言葉のせいで、くよくよく泣けなかったことが小学生の時にありました。

ぼくには、二つ上の姉がいるのですが、姉が泣いても何も言われません。

女の子だから（弱いから）しょうがないと思っている人もいるかもしれませんが、それはメンタルの弱い男の子にも同じことが言えるのではないかと思います。

「男の子だから泣くな」や「女の子だから泣くな」などの男女差別がなくなればいいなと思っています。

小学生の時に言われた言葉から改めて「男の子だから何をしろ」や「女の子だから何をしろ」といった差別的な考えについてよく考えることができました。

他の国や地域では、もっと差別的なことを受けている人たちがいるかもしれません。こんなことをなくしていくには、まず私たちから行動しないといけないと思います。

差別的な考え、発言をしている人を見たら、「それはいけないよ。」と声をかけて、この社会から差別的な考

えをしている人がなくなれば、みんなが楽な気持ちで過ごすことができます。と思います。

例えば、家庭的な仕事だけにしぼられてきた女性、男性だけでなく女性として生きたい人、そんな人たちが「男だからダメ」「女だからダメ」と言われなくなり、個として尊重される社会になればよいと思います。

個人が尊重される社会になれば、みんな、自由に仕事や生活ができ、自分からできることを探して、差別的な考えにしばられず、よりよい社会になると思います。

そんな世界にしていきたいです。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを「二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名可）、珍珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

